

南部町長 就任の あいさつ

坂本 昭文

昭和24年3月6日生 55歳

平成7年4月から平成16年9月まで西伯町長を歴任



南部町長に就任させて頂いた坂本昭文です。合併を進めた者の責任として町長選挙に立候補しましたが、無投票当選の栄に浴し十月二十五日初登庁させて頂き感激しております。誠にありがとうございます。

もとより浅学非才な者であり、皆様方にご迷惑をお掛けすると思いますが、住民の皆様の幸せと町の発展のために全力を傾注して参りますので、ご協力を賜りますように宜しくお願いいたします。

合併

この度の合併は、本格的な少子高齢社会や厳しい財政状況への対応、更に分権型社会の構築などを目的として、政府の重要政策として推奨されました。

私たちは先人が嘗々と築かれた町の歴史や文化を大切に思いながらも、一方では今日的な課題に対応するためには「合併もやむなし」との判断に立ち、二町合併を選択いたしました。

一度合併したら元には戻らないと言う事や、住民の皆様には合併による変化を受け入れて頂く為には、先ず小さなところから始めるべきであろうと考えたからでもあります。どうぞこのような事情や思いをご理解頂きまして、ま

ちづくりにご協力をお願いする次第であります。

まちづくり計画の推進を

合併協議では今日まで両町が取り組んできた特徴的な施策を尊重し、更に発展させる事を基本として、まちづくり計画に様々な事業を予定しております。その中でも重点事業として循環バス、情報通信基盤整備、西伯病院の建設を位置づけて強力に進めてまいります。循環バスについては宝くじ協会よりバス三台の寄贈を受け、八月一日よりすでに運行し、喜んでご利用頂いております。情報通信基盤整備については十七、十八年二か年の事業として国に補助採択を要望して参ります。

病院建設は在宅・メンタル・ITをキーワードにして、通所リハビリテーションや痴呆専用の療養病床を用意するなど、時代や地域の要請に応える病院を目指して建設中で、来年九月頃には完成します。安心して暮らせるまちづくりには、医療が身近にあることが必須であり、皆様にきつと喜んで頂けるものと思っております。

このような事業の展開に必要な財政は極めて厳しい状況にあります。国は

三位一体改革により、頼りとする地方交付税制度などに大きなメスを入れようとしており、合併の成果を収めていくことは予断を許さない厳しい状況になっていきます。しかし昭和の大合併の状況と比較しても時代は大きく進み、皆が豊かになった今日、私たちには出来ない筈はありません。

心と力を合わせて私たちの南部町を日本一すばらしい町につくり上げて、後世に引き継いで参るうちはありませんか。

就任にあたり町民各位のご多幸とご健勝を祈りながら、町づくりへのご協力をお願いしご挨拶いたします。



初登庁